

言問い(こととい)：50周年記念植樹イチイに命名されたものです。

## 令和6年度 西春別中学校 第6号

# こととい



令和6年8月30日 発行

< 校 訓 >

自 主 友 愛 有 能

< めざす生徒像 >

- ・自ら学び考える生徒
- ・心と体を鍛える生徒
- ・協働する生徒
- ・郷土を愛する生徒

発行責任者 校長 綾野 正巳

## サーカスの象



西春別中学校長 綾野 正巳

長い長い夏休みが終わり、長い長い2学期が始まります。2学期は長いな~と思っている人もいるかもしれませんが、考え方次第です。この長い2学期こそ、自分を大きく成長させることができる期間だと考えることもできます。

そんなみなさんに、今日は1つだけお話しします。それは、「サーカスの象」のお話です。サーカスの象は、片足を細い鎖で繋がれています。そんな細い鎖なら、引っこ抜いて逃げ出せると思いませんか？しかし象は逃げ出さないんです。なぜでしょう？

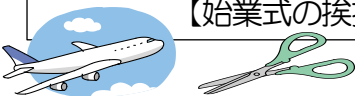
答えは、「自分には力がない」と思い込んでいるからなんです。この象は、幼いころからずっと鎖に繋がれて育ってきました。逃げ出そうと思っても、小さな体では鎖を引きちぎる力が無かったのです。そして大人になってからも、幼いときの「力がない」という思い込みから逃げ出すことはないそうです。

みなさんもこのサーカスの象のように、「自分には出来ない」と潜在的に思い込んでいることはありませんか？無意識のうちに「自分にはこれは出来ない」と決めつけていませんか？

しかしそれは、自分の可能性を捨ててしまうこととなります。「出来る」と思えば、出来ることはたくさんあります。小学生の頃にできなかったことでも、今挑戦したらできることがあるかもしれません。

ですからこの2学期には、今まで出来ないと思い込んでいたことにも「挑戦」していきましょう。勉強も部活動も、それ以外のこともそうです。2学期には学校祭などの行事もあります。どんなことにも、仲間と励まし合いながら全力で「挑戦」する、そんな2学期にしてください。

【始業式の挨拶より 「くさりにつながれた象」というスペインの絵本の寓話です。】



夏季休業中、大きなケガ、事故等もなく、生徒達が元気に過ごし、始業式に笑顔で登校してきたことを大変嬉しく思います。

さて、新千歳空港で8月17日、保安検査通過後の「制限エリア」にある店舗でハサミが1本見当たらなくなり、安全確認のために、それまでに検査場を抜けていた乗客への再検査も行われ、36便が欠航し201便に遅れが生じる大きな事案が発生しました。安全を守るためのやむを得ない判断ですが、たかがハサミでなぜここまで？と思った方もいたようです。

「ハサミは便利ですが、危険な道具でもあります！」小学校で担任をしていたときは、クラスの子ども達にしつこく言い続けていました。なぜなら、幼少期の恐ろしい光景を忘れることができないからです。幼稚園児の時、先生がお道具箱にハサミをしまってくださいと言って、元気な男の子がハイと勢いよく教室後方に走って行きました。「キャー！」と聞こえた次の瞬間、床に血が飛び散っていました。女の子の顔にハサミが、、、。幸い、幼稚園の隣が市立病院だったので、すぐに治療ができ、大事には至りませんでした。私の脳裏に鮮明に残っています。「ハサミは危ない」危機意識は経験や知識で高まっていますが、どうしても個人差が生じます。

今回の空港側の対応や乗客達の反応を見ていると、日本の危機意識、危機管理能力の変化を感じました。30年前なら、再検査など行われなかったはず。そもそもハサミ=危険物という意識すらなかったと思います。なぜ変わってきたのか？それは、世界中を震撼させた米国同時多発テロが拳銃ではなく、刃物で行われたという悲しい教訓からです。

**万が一を見逃さない。最悪の事態を未然に防ぐ。命を守ることを最優先する。**

社会全体でこの意識が高まってきていると感じました。

学校としても、危機意識、危機管理能力を高めく必要性をあらためて感じた夏休みでした。